

■ 命の重さは株価のように上下する、

戦争で暴落する命の価値

修正： 2022.04.01

投稿： 2022.04.01



● 命の重さは株価のように上下する、戦争で暴落する命の価値①

「人を殺すことはいけないことだ」

と言われております。「本当か？」

と思えるほど、**人は人を殺しています**。

強盗殺人、保険金殺人、強姦殺人、快楽殺人、
テロ、報復、戦争、民族浄化、人体実験、
数百年前にさかのぼれば、奴隷身分の人を
使い捨てるように殺してきた歴史もあります。

今でこそ**基本的人権**が確立されておりますが、
長い歴史の中で「人権」という概念が現れたのは最近のことです。

そのように平和になってきたはずの日本においても、
痛ましい**殺人事件**は、まだまだ止まる気配がありません。

「ガソリンを撒いて大量殺人した」というような
殺人事件のニュースが流れる度に、
「どうしてこうも簡単に人の命を奪えるものか…」と、
憤りを感じずにはいられないことでしょう。

ゲームの中であれば人を殺すことは簡単です。
もし現実世界においても、別に痛みもなく、
かつ、死んでもすぐに復活できるのであれば、
人を殺すことは何の問題でもありません。
自業自得や因果応報も怖くはありません。

しかし、現実世界はそうなってはいません。
失われた命が戻ることは**二度とない**のです。
相手を殺したいという殺意は同じでも、**重み**が違います。
ゆえに「**人命は地球より重い**」とされているのです。

「**1人の死は悲劇だが、集団の死は統計上の数字に過ぎない**」
と言ったのはナチス・ドイツのアドルフ・アイヒマンですが、

大勢の死となれば、戦争にしろ、災害にしろ、
統計的に処理されてしまうものです。しかしそこには、
一人一人の「地球よりも重い人生」があったのです。

(続)

//=====//

●命の重さは株価のように上下する、戦争で暴落する命の価値②

「人を殺してはいけない」という自然法則は
存在しません。あくまで人間のルールです。
運動方程式をどんなに式変形しても見つかりません。

むしろ自然界は弱肉強食の世界であり、
殺し合っている方が自然、とすら言えます。加えて、
人間以外の生き物を殺してはいけない理由についても、
人のやることですから、人の世界の中にだけ存在します。

もし自然法則的に、人が人を殺してはいけないのであれば、
そもそもそれは「できない」ようになっているはずです。
破れば罰するのではなく、最初からできないようにしておくべきです。

神様なら、きっとそういう風に世界を作ることでしょう。
やっちゃいけないことができてしまうなら、それはバグです。
よって、「できること＝神様も黙認していること」と解釈できます。

例えば、自然法則的に、地球は壊してはいけません。
と言うのも、誰も地球を壊す力を持っていないからです。
ゆえに、「してはいけないこと」と解釈できます。

ただし、「できること=してもいいこと」であったとしても、
「**してもいいこと≠幸せに繋がること**」の点には注意が必要です。

「後悔先に立たず」と言うように、
それをやって幸せになれるかどうかは分かりません。
神様も前もって教えてはくれません。まったく…。(。-`ω-)

だからこそ私たちは、試行錯誤し、人権を確立し、
憲法を制定し、戦争はダメ、虐殺はダメ、殺人はダメ、
とルールを作り、平和のために尽くしているわけです。

人を殺してはいけない理由？
そんなもの宇宙には存在しません。

何でもかんでも神様に頼ろうとするのではなく、**人の手で、**
人を殺してはいけない世界を作っていかなければならないのです。

(続)

//=====//

●命の重さは株価のように上下する、戦争で暴落する命の価値③

「なぜ人を殺してはいけないのか？」

に対する**世間一般の回答**としては、

1. 自分が人からされて嫌なことは、人にしない
2. 人命は尊ぶべき
3. 殺人を許容すれば、治安が悪化し、国が繁栄しない

などが挙げられます。

1. 「自分が人からされて嫌なことは、人にしない」について、

「やったらやり返される」の因果応報が背景にあります。つまり、「人を殺してもいいのは、人に殺される覚悟がある奴だけだ！」と言うことになります。覚悟があれば殺してもいいのでしょうか？

よく混同されますが、自殺する覚悟と人に殺される覚悟はまったくの別物です。自殺は自分のタイミングで行えますが、他殺は相手のタイミングでなされるものだからです。加えて、手段も選ばません。

2. 「人命は尊ぶべき」について、

人命よりも尊いものがあれば、どうなりますでしょうか？
例えば憲法です。憲法は数多の犠牲の上に作り上げられたものですから、一人の命より遥かに重みがあります。この憲法がもし他国に侵される事態に陥れば、否応がなく戦争になります。

国民の中には、「降伏してでもいいから、戦争は避けるべき！」と考える人もおられるかもしれません。が、国家(政治家)は、国民の命を犠牲にしてでも、憲法や主権を守ろうとするはずです。

3. 「殺人を許容すれば、治安が悪化し、国が繁栄しない」について、

一見して正しいようにも見えますが、逆に、
国の繁栄に役立たない人は殺しても構わない、
と言うことになりかねません。

人を殺してはいけない基準が
国の繁栄に貢献しているかどうかであれば、当然、
貢献していない人を保護する理由はありません。
保護しない方が国は繁栄するためです。
そんなのでいいのでしょうか。

(続)

//=====//

●命の重さは株価のように上下する、戦争で暴落する命の価値④

私たちの行為の善悪は、前提条件と目的に左右されます。

「何かをするために何かをしなければならない」、もしくは、
「何かをするために何かをあきらめなければならない」です。

例えば、「太りたくない ⇒ あまりガツガツ食べてはいけない」
となります。「太りたくない」という目的があるからこそ、
「あまりガツガツ食べてはいけない」となるのです。

何の前提条件も目的もなく、
「ガツガツ食べてもいいですか？」とだけ質問されても、
良いか悪いかの判断はできません。同様に、

「人を殺すことはいけないことか？」と、
何の前提条件も目的もなく問われても、
善悪は判断できません。何をするにしても、善悪は、
前提条件と目的によって変わるからです。例えば、

大量殺人した極悪人を処刑するのは善か悪か？
自分を殺そうとする相手を殺すことは善か悪か？
生きていても苦しいだけの患者を安楽死させることは善か悪か？
…。

などなど、前提条件や目的が変われば、途端に、
「善」と見なされたり、「悪」と見なされたりします。
このように、善悪は相対的に決まっていきます。

「一人を殺せば殺人者だが、百万人を殺せば英雄だ。

殺人は数によって神聖化させられる。」と言って、
世界大戦を通して経済大国となった当時のアメリカ
を批判したのは、喜劇王のチャールズ・チャップリンです。

同じ人殺しであっても、あるときは悪で、あるときは善なのです。

(続)

//=====//

●命の重さは株価のように上下する、戦争で暴落する命の価値⑤

戦争になると、命の価値は暴落します。常日頃、
私たちは「人命は地球より重い」の精神で、
上司に叱られながら、目先のノルマをこなして暮しています。

ですが、戦争になるとまるで逆です。
兵士は命の取り合いをしているわけですから、
人命を尊んでいる余裕はありません。
敵国の民間人への配慮も不可能です。その民間人が、

武器を手にして攻撃してくるとなれば、尚更のことです。
国際的には「民間人に手出ししてはいけない」というルールが
ありはしますが、戦争はスポーツではありませんので、
スポーツマンシップに則りルールを守って、
正々堂々と殺し合う、なんてことはありえません。

もし、日本が戦争する国になってしまったとき、
今のように、「人命は尊い」とか「人命は地球より重い」とか、
そう言ったことは堂々と叫べなくなります。なぜなら、

それは戦争反対を意味しており、**国家の意向にそぐわない**からです。

「人命は尊い！」と言う(決める)のは政府であり、
「人命は安い！」と言う(決める)のも政府です。

そうして**政府の意向で命の価値は上下する**ことになり、
戦争が始まると、いよいよ命の価値は暴落します。
ハイパーインフレを起こし、紙屑になってしまったかつての
「100兆ジンバブエドル紙幣」並みに、**無価値**になっていきます。

そもそも私たちの命の価値は、**固定**ではありません。**変動**します。
「**なぜ人を殺してはいけないのか？**」と問えるのも、
今いる場所が平和で、それだけ命の価値が高いからです。

もし戦争によって命の価値が暴落すれば、
「**なぜ人を殺してはいけないのか？**」
と問うこともなくなることでしょう。なぜなら、
価値のないものに、時間を割いても仕方がないからです。

(完)

//=====//

Web サイト :

心を力学する ー原理・原則に基づく生き方を考えるー

著者 :

時無 和考(Tokinashi Kazutaka)